本草拾遺

へ13
3052
4

竹取物語上下編

京山作
國貞画

森屋壽板

取物語七編上
京山作
國貞画
森治
寿梓

へ13 特
3052
4

今より九百廿年可のむかし源の順朝臣が作ありとかの
竹取物語の枝に数学の巣ぐくみて松若梅若を産
ませ已ふ七八の編る嬢を為り趣向を固梅若は木に
竹ちりのつぎ穂なれば順が耳をとりて献之ゲ子家ふ
記ちゝ紙書賈ハ此君と奉じて隅田川の桜木よのせつ
室の早咲冬ちりいでて児曹ゲ乙夜の賢よ供ち

仝初冬梓成發販
江都洛陽橋南朱提術第一坊
左傍第十家　山東庵京山　題

正月
さうの春
太夫
針ばこ
三月
妓家
月花やの
ひなまつり
おせん
ち田のきんだち
梅若丸

六月
七月
月花屋の
太夫
花ぎと
八木沢
庄七
五月
孝子
三吉
九月
四ッ原の妓家
月花屋
の芸房
お百

竹とり物がたり
七夕ものがたり

さるまの
ものがたり

さるまの
ものがたり

六へんゆめものがたり

竹とり物がたり

女房小安

若九

あやめ
はなぶさ

小安
梅若丸

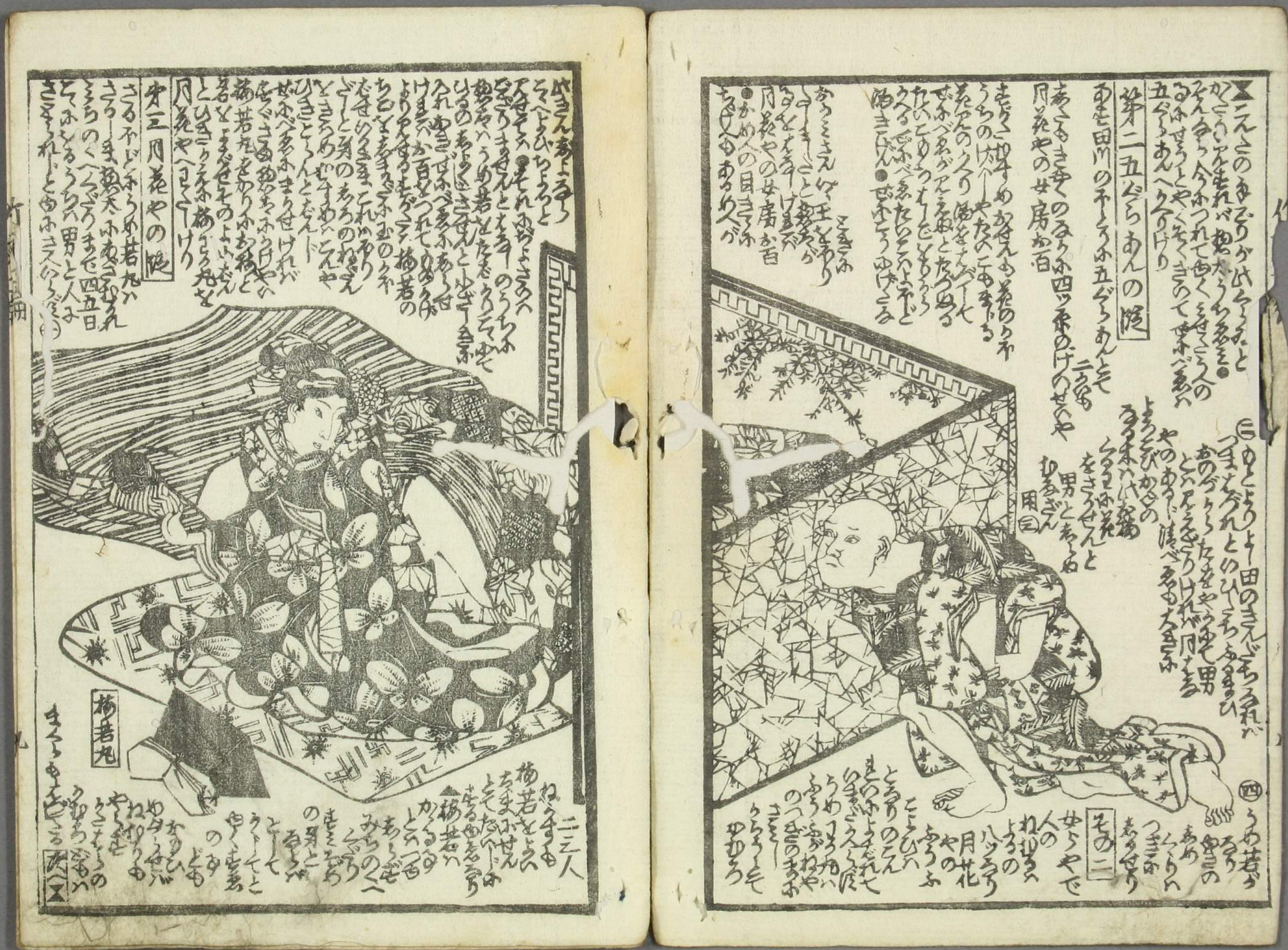
梅若丸
小安

梅若
せのゝ八郎

月花屋の百房

さろーま太夫
梅若丸

お百



第二 五ぐらあんの図

第三 月花やの図

やりて　若丸

若丸

京山作
國貞画
竹そり
梅若丸

竹取ものがたり
下乃巻
月花やの座
竹取ものがたり

㊁ひとことのこてんもの
あくやわるくわるくわるく
つけて●おくさまこれ
どうんるるされ
あのやうふ
あーやるよ
るんとも
らそもも
そそ
ぞ
らるま
人のわい
こうけい
まらぬあ
かやよ
ゆあわ
あそろーい
むすのうち
ちゃるくだ
たるものだ
ざんも
まの
口入
ぬ
ぬ
ぬ
よびふり

あれがとこうへたひえんでやるさんせと
まてどいきまきまとうぐひて
きくこそれゆあるやうやうとうこうとも
どうあるやうやうとうこうとも
●いろさまとりやめてこうとも
うろあゆるくゆいぎろ
ありやきんがにをそろへ●あやくこ
かりまでぐりまさう
あるでうるづき
かやをそれけて
うろひきー
ゆうろ九は
うちむりひ
●とりや五十ぬ
とりうろを
女のまーをうう
ぐりーいをうがむで
ゆこでいあるい
うりぬーいさ
たーくるまやくーしんとうろ
なけるくうりとーしく女のまさ
るるるこ
ざのいろ
ゆるるる

若丸

あうや
金かた
清べえ
ゆりあやめ
あ日

おせん
お百
梅若

梅若丸

梅若丸
さくら

おせん

あせん
四の巻

三の巻

おせん
さるさと

第五 おせんさんぞの能

第六ものがたりの條
あ百
三吉

あせん

わるあの長八

三吉

月花や せんべえ
月花や わらハの長八
三吉 母 えんざぶろう
三吉 えんざぶろう

題竹

書亂帝亟思君恨深
閑喜枝懷榮邑長閑
南園風雨起出生鑠
甲考古龍唐傳

陶作 四 東

妙若れ木こ井ろうのつくるふ
さを人こ見ろ
新の赤本

天保十二丑夏稿本
同 寅の秋ちうん

板元 森屋治兵衛

潸然瓶
走筆之作意一時之戯手上梓播布供世上之覧汗顔恒不止
○吉田の公達
梅若丸
花野

是無他為青蚨機心也噫乎可恥〻〻
○梅若の母 班女前
お戈
○月花屋 頓舎仙

竹とり物がたり八へん上るえ
▲第一たとくまひの浦
大黒舞
梅若丸

竹とり物がたり

浦べ家
お百

浦若丸
浦べ家
おせん
ずきんの八郎

えんぎょのきん

でろやあさた
その二

世房お百
二の巻へ

二の巻へ
本多の八妙
あさ吉

月見や
清べ衛
千と千の八枚

仇眼八紘
そろあろる日
梅若い母のありかあれ
あれもけがいかよの
おとよ
おとよの八妙
あさち
ちぢよ
あれいと
田のちぢん
妙のちぢよ

梅若丸
ちせん

▼まきさのアやうづきるとあ井かうやく
きてびはきさりきちがひ女の身を
きちがひのくまりとかおとえてあるが
もとてくらいくまろとめかあ
ついか用ひさやがるいかな
のこえてやうちいくさと
といけいきちがひとまるこひ
ざうーとまるこころと
ばへあさ吉もさとり
けるがいーものふる
るまでことやゆまるせて
たのそけり▲はきちがひが
なんぢよのまえとんひとるる
下のまきけんとくあさとり

江戸 京伝

京山

文ぢんやくムらんゆ丹
ねりやくムらんゆ五ゆ女
二女五ト男いかムら
ゆるいさでくとゆその
たのーこりき人のごとく
すとつも男わさるとこの
女い五十以上ーとーあ月ゆ
るるうちんたるむゆ妙ゆ
ちくむるこのうぶきる
ムうくあるもり

竹とり八ん上をとり

京山作

國貞画

竹取八編下

第一やうくわるさんぢよのきちがひ

あさまんかうひてあのぬひまるを
月花やゆもかくるこ四人ものこまの女ろり
ひとりかくるとやめるふつをけあたるその門
あとえ入るおたるをつまきさろ月花
やの女房ゆむうひ●りおくるさん
あさ多ーやきりとおゆ女ぶを
つまとてまあるりまーこけるうら
をくふるんそあさせるるられ
わこうるいてきくそ女ぶるます

●それへ●ぶ●ぶ●ぶ
●ナムうとこ人田の
ちちでぶるります
これうムんるわうよ
つけてあやうこあ
ゆるまるる月ムみ
られてくさるませ
●うゆ●ひうかれうろ
ねりちきのつための
うくさいるるるるる
きをつけたのこ
ますとてるのお
ゆもかのさうこ女ゴ

あたり
おり

●ヤアおたるうりて
こてへ
あれへ
●そて
より田の
えちよのまえ
ゆワゴまを
ゆくせるるまをのどせと
うるめたけりあて
清へゆけるるホ

おり

四かけ
きてり●ゆぜ
をもてあゆ
ものとまりけまい
みまうるお百

あつ井
幸やく
あき吉
お七

清べ衆
お吉

清べえ
あさ吉
お戸

あさ井
お百
吉

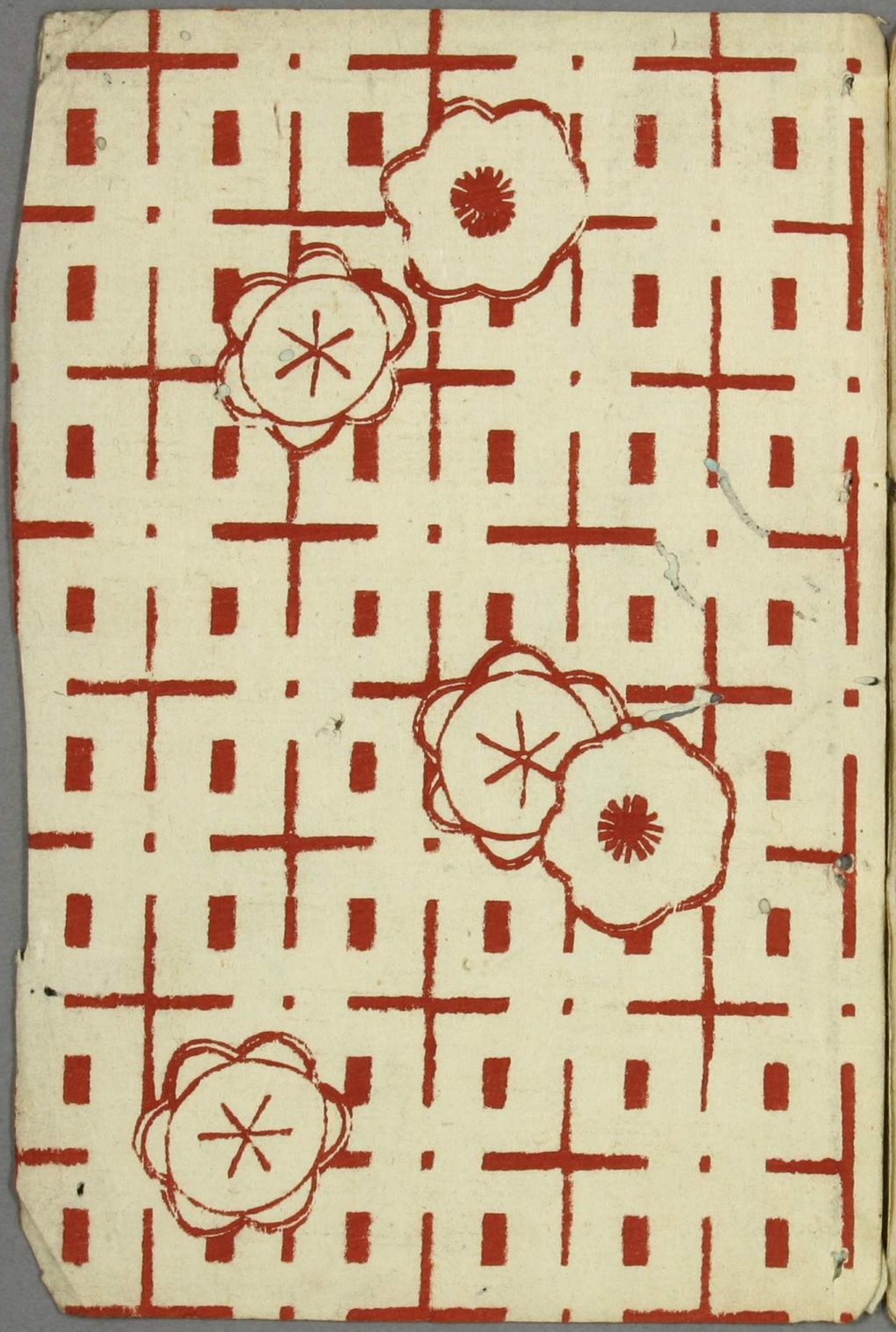
清介
あさ吉
お丸

お吉
お丸
お竹
お千
お仙
梅若丸
かぢたつ

江戸
仙女ろう
坂本氏
上ハ

仲国八編
十九
▲さるのものきろえさを
のりものゆてんをつけ
しふそろひかるまき
くのあく
ゆも
㊀
㊁
㊂
大ろひさ

仲国八編
横ぶとり
上人
つるの
刃の井
㊃ざ
つぎへ



京山作国貞画
竹取八編終巻